

第6学年道徳学習指導案

平成16年 10月29日(金)5校時
6年1組 男子10名 女子8名 計18名
指導者 安樂朋陽

1 主題名 愛するふるさと 4-(7)「郷土愛,愛国心」

資料名「わが故郷桜島」～本校自作資料

2 主題観

(1) 主題について

本主題でねらう内容は、視点4の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の「(7)郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」であり、「郷土愛,愛国心」の道徳的価値の内面化を図るものである。特に、本主題では「郷土愛」を主なねらいとしている。

自分の育った郷土は、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的支えとなるものである。この時期の子どもたちは、自分たちが育ってきた地域の特徴や歴史を学び、郷土への誇りや愛する心を持つようになってきている。また、共に育ってきた友人と、友情を育んできたことに気付くことや自分の親も自分と同じようにこの土地で育ってきたことに改めて気付くことで、郷土への親しみやありがたみを持つようになってきている。その一方、郷土を外側から見る視点を十分に持てなかったり、昔の人の苦労や心情に対して十分に共感できていなかったりすることがある。そのため、郷土への愛情が豊かに育まれなかったり、心身の発達から自分の住む地域よりも他の地域への関心が先立ったりしてしまうことがある。その結果、地域の行事や活動に興味を持たずに積極的に関われなかったり、地域の人々の生活や文化、伝統に親しみを持てなかったりして、郷土を大切にできないことがある。

したがって、この発達段階においては、郷土の行事や文化に対する積極的で主体的なかかわりを通して郷土を愛する心を育て、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。さらに、郷土の発展に尽くして文化や伝統を育てた先人の努力を知ることによって、自分自身もそれを継承し発展させる責任があることに気付き、そのために努力していこうとする心を育てることが必要である。

(2) 内容項目の系統

<第1学年及び第2学年> 郷土の文化や生活に親しみ、愛着を持つ

<第3学年及び第4学年> 郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心を持つ

<第5学年及び第6学年> 郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心を持つ

(3) 児童の実態

対象 男子10名,女子7名,計17名 実施日 10月4日(月)

本学級の子どもの「郷土愛」に関わる桜島への考え方や大正大爆発に関することへの認識は以下の通りである。

桜島でほこりに思うことは何がありますか。(複数回答)

桜島大根が世界一大きい	16人	桜島小みかん	9人
火山	3人	火の島祭り	2人
マグマ温泉	1人	桜島フェリー	1人
行事が多い	1人	茶色のローソン	1人
有名	1人	住んでいる人のやさしさ	1人
サッカーが強い	1人		

大正時代に桜島が大爆発をしたのを知っていますか。

はい	16人	いいえ	1人
----	-----	-----	----

どんなことを知っていますか。(複数回答)

大隅半島と陸続きになった	15人	桜洲小が溶岩で埋まった	8人
黒神の鳥居が埋まった	7人	多くの死者が出た	1人
記念碑がある	1人	移住した人がいた	1人

大正の爆発で桜島に住めなくなって他の土地に移住した人々がいるのを知っていますか。

はい	12人	いいえ	5人
----	-----	-----	----

移住した人々が移住先でどんな生活をしていたか知っていますか。

はい	0人	いいえ	17人
----	----	-----	-----

ふるさととは、どういうものだと思いますか。(複数回答)

心が安らぐところ	9人	生まれ育ったところ	4人
思い出が詰まっているところ	4人	自然が多いところ	4人
なつかしい感じがするところ	3人	友達や家族がいるところ	2人
やさしさがあって大切なところ	2人	田舎	1人

桜島をふるさとだと思いますか。

はい	15人	いいえ	2人
----	-----	-----	----

もし、今桜島が大爆発を起こし、他の土地へ移っていかなければならなかったとしたら、あなたはどんな気持ちになりますか。(複数回答)

とても悲しい気持ち	9人	友達とはなれて嫌な気持ち	6人
噴火がおさまったら桜島に戻りたい	4人	離れ離れになりたくない	3人
桜島今までありがとう	2人	今までの思い出を大切にしよう	1人
やさしさがあって大切なところ	2人	混乱する	1人
みんな大丈夫かな	1人	学校がなくなってしまった	1人

本学級の子どもたちは、ふるさとのことを心が安らぐところや自分が生まれ育ったところと捉え、桜島のことを自分のふるさとであるとほとんどの児童が考えている。また、もし桜島が大噴火をして移住しなければならなくなったときの気持ちとして、悲しい気持ちや友達と離れて嫌な気持ち等が挙げられている。現在の桜島での生活を失いたくない気持ちが読み取れる。日常の言動からも、鹿児島県のシンボルでもある桜島への誇りや愛着をもっていることが感じられる。大正の大爆発のことは、ほとんどの児童が知っているものの、その際に桜島を追われ移住した人がいることを知っているのは約3分の2(17人中12人)である。さらに、移住していった人々の苦勞は全く知らないようである。児童が桜島をふるさとと思っている気持ちや移住した人々の苦勞を知らないことなどから、本時の学習課題を引き出していきたいと考える。

また、子どもたちは、町で行われる行事へ日頃、参加している。六年生になってからは参加する機会がさらに増え、地域のリーダーとして活動している。桜島町が11月から鹿児島市へ合併するが、その際今までの行事が少なくなることを児童たちは知っており、少なくなった行事への関わり方としては、できるだけ参加するや協力していきたい等の前向きな気持ちをもって合併に臨んでいる。この気持ちをさらに高めさせ、今後の桜島の行事を盛り上げ、郷土の伝統や文化を大切にしていこうことの重要性を認識させたい。

学級内の雰囲気はとても良く男女関係なく仲が良い。授業内容への理解は全体的に良いが、自分の意見を進んで発表することを苦手としている。1学期は道徳の時間にあまり手が挙がらなかったが、2学期になって自分の考えや体験を積極的に発表するようになってきている。しかし、特定の児童の挙手が多い傾向にある。ワークシートに自分の気持ちを書いていても発表しない児童もいる。そこで、自分の意見を友達に知っ

てもらうためと他の人の多様な意見を知り、自分の意識を高めるためにもワークシートを交換しお互いに読む時間を設けている。自己の意見を他者に伝えることの大切さを自覚し、積極的な発表をできることにつなげていきたい。

(4) 資料について

本主題で取り上げた「わがふるさと『桜島』」のあらすじは次の通りである。大正の大爆発で桜島を追われた黒神集落の人々が、大根占の名刃迫に移ることを余儀なくされる。荒れた土地を開墾する中で、子どもを失ったり、ひどい家に住んだり、言葉では言い表せないほどの苦勞をする。ふるさと桜島のことを思いながら、みんなで協力して苦勞を乗り越え8年の歳月をかけて開墾する。そして、切り開いた土地を「桜島」の「桜」を入れた「桜原」と名付けた。また、大正の爆発から九十年過ぎた今でも移住当時の苦勞をしのび、移住記念式が行われている。

あらすじ・中心場面	主人公の気持ちや様子	価値
大正三年の爆発前は、桜島の人々は家族や友だちと楽しく豊かな生活をしていました。	<ul style="list-style-type: none"> ・幸せな生活だな。 ・桜島はいいところだな。 ・桜島はふるさとだ。 	郷土愛
大正の大爆発で、畑や家を失い、変わり果てた桜島をみてぼうぜんとして立ちつくした。	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しい気持ちだ。 ・住み慣れたふるさとを失った。 ・どうやって生きていこうか。 	郷土愛
黒神集落の人々は、大根占の荒れた土地へと移住し、がっかりしながらも手作業の開墾を始めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどい土地だ。 ・生きるためにがんばるしかない。 	不撓不屈 希望、勇気 郷土愛
生活もひどく、子どもの命も数多く失い、生きていくのに必死である中、開墾を続けた。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを失って悲しい。 ・生きていけるのだろうか。 ・桜島に帰ってがんばりたい。 ・桜島のようにしよう。 	不撓不屈 希望、勇気 勤勞、社会奉仕、公共心 友情、信頼、助け合い 郷土愛
数々の困難を乗り越えて、8年かけて開墾することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・やっと開墾できた。 ・みんなで協力して作業して良かった。 ・桜島をふるさとにもつ者同士ががんばれた。 	不撓不屈 希望、勇気 勤勞、社会奉仕、公共心 友情、信頼、助け合い 郷土愛
切り開いた土地には、ふるさと「桜島」の「桜」をとって「桜原」と名付けた。	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島を忘れたくない。 ・自分たちは桜島の出身だ。 	郷土愛
現在、桜原では大根の栽培などをしながら暮らし、移住後九十年たっても移住記念式を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島や爆発を忘れてはいけぬ。 ・伝統を引き継いでいかなければいけない。 	郷土愛

(5) 指導にあたって

《つかむ段階において》

学級のほとんどの子どもが、桜島をふるさとだと思っていることをおさえる。そのことをおさえた上で、大正の大爆発前後の桜島の写真を提示し、人々の生活を対比させる中で、移住していった人々の存在に気がさせる。大正に桜島に住んでいた人々にとっても自分たちと同じように桜島はふるさとなんだということを強くおさえる。実態調査の「大正大爆発で移住した人々がいることを知っているか」の結果を提示し、3分の1の児童がこの事実を知らないことを示す。さらに移住していった人たちの生活は勉強したことがないということにも触れ、桜島を移住せざるをえなかった昔の人々がどんな苦勞やふるさとへの思いを持っていたのかを勉強してみようかと促し、『「ふるさと」について考えてみよう。』という学習課題を引き出す。

《考える段階において》

子どもが共感した場面や心に残った場面を発表させ、話し合いの場面を焦点化する。
 爆発前は桜島で幸せに暮らしていたことを踏まえた上で、溶岩に飲み込まれ、ふるさとの畑や家を失ってしまった桜島の人々の悲しみや不安な気持ちを捉えさせる。
 食べ物不足、ひどい住居、病気によって子どもやお年寄りが命を落としていくこと、他の地域の人からのよそ者扱い等がある中での、開墾していく時の黒神の人々の気持ちを考えさせる。もうやめてしまいたい気持ちや桜島に戻ってがんばりたいという気持ち、あきらめず協力してがんばろうという気持ち等があったことに気付かせる。あきらめない気持ちや協力する気持ち、桜島を思う気持ちがあったことで8年の歳月をかけて開墾できたことにふれる。
 地名に「桜」を入れ「桜原」とした黒神の人々の気持ちに気付かせる。桜島のことを忘れたくない、桜島はふるさとであるという気持ちや桜島出身同士でがんばってきたという気持ちを捉えさせる。移住記念式をしていることにもふれる。

《広める段階において》

先人の人々の苦勞や思いを知り、学んだことをこれからの自分の生活にどのように生かしていきたいかを考えさせる。郷土の先人のたくましい生き方を感じると共に、日頃の自分の桜島に対する行動や気持ちについて振り返らせ、今後自分がどのような気持ちや考えで桜島に関わっていきたいかを自分なりの考えで引き出させる。

《高める段階において》

地域の方に話をしてもらう。地域の方の桜島への思いを話してもらう。この思いに子どもたちに共感させる。黒神以外にも移住した人が多くいたことや桜島に住んでいる限り自分たちにも移住しないといけないことがありうることを話してもらう。また、11月に桜島町が鹿児島市と合併するという事によって、なくなっていく行事が多数あることに気付かせる。桜島町がなくなっても、ふるさと桜島がなくなるわけではないことを踏まえた上で、桜島の文化、伝統、行事を自分たちが継承し発展させていかなければならないことに気付かせ、積極的な心を持って努力していこうとする心情を高めさせる。

3 本時

(1) 本時のねらい

郷土の先人の苦勞や故郷への思いを理解することで、自分たちの住む桜島を大切にしていこうとする態度を養うことができる。

(2) 実際 4 - (7)「郷土愛、愛国心」

評価

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
つ か む	1. 昔の桜島について考える。 (1)大正爆発前の豊かであった頃の桜島と爆発した時の桜島の違いを知る。 ・爆発前の豊かな暮らしや爆発のひどさを知る。 ・移住せざるをえなかったことを気付く。 (2)実態調査の結果から、大正大爆発の時移住した人がいたことをあまり知らなかったことに気付く。 2. 学習のめあてについて話し合う。 「ふるさと」について考えてみよう。	5分	実態調査を提示し自分たちが桜島をふるさとだと感じていることを確認する。 プロジェクタで絵を提示し、大正爆発前も自分たちと同じように豊かに楽しく暮らしていたことを感じさせる。 プロジェクタで写真の提示し、爆発のすごさと移住せざるを得なかった人がいたことを押さえる。 移住した人のことを知らなかったことから昔のことを知ろうという気持ちをもつように促す。 本時を考えていく上での方向付けをする。

考 え る	<p>3. 資料「わがふるさと『桜島』」を読み、黒神の人々の心情を考える。</p> <p>(1) 心に残った場面を発表させ、話し合いの場面を焦点化する。</p> <p>(2) 畑や家が溶岩に飲み込まれ、ぼうぜんとして立ちつくした時の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故郷を失ってしまった。 ・これからどうなるのだろう。 <p>(3) 悲惨な状況の中で、開墾していくときの気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが子を失って悲しい。 ・食べるのもたいへんな暮らしだ。 ・くじけずにやりとげるといふ強い気持ち。 ・同じ故郷を持つ者同士で協力しようという気持ち。 <p>(4) 開墾した地名に「桜」という文字を入れた気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜島を忘れたくない。 ・桜島出身同士でがんばってきた。 	2 5 分	<p>教師が資料を範読したテープを聞かせる。聞きながら問題場面を焦点化できるように桜島の人々が迷ったり悩んだりしているところや強く心に残ったところに線を引かせる。</p> <p>幸せであったふるさと桜島の生活が失われてしまった悲しさや不安な心に気付かせる。</p> <p>移住した時の心情も考える。</p> <p>もうやめてしまいたい気持ちや桜島に戻ってがんばりたい気持ちや、互いに協力して開墾した気持ち等があったことを考えさせるため、児童の意見を類型化して板書する。</p> <p>様々な気持ちの中にふるさと桜島への思いがあったことに気付かせる。</p> <p>ワークシートに自分なりに、先人の人々の思いを汲み取って書いているか。</p> <p>あきらめない気持ちや協力する気持ち、桜島への気持ちがあったから8年の歳月で開墾できたことをおさえる。</p> <p>「桜」をつける心情を深く考えさせるために桜島の「桜」をつけたことにふれる。</p> <p>桜島はふるさとであり忘れたくないという桜島に対する心情を深く捉えさせる。</p> <p>移住記念式を続ける心情にもふれる。</p>
広 め る	<p>4. 移住した人々の苦勞や思いを学んだことを、これからの生活にどのように生かしていきたいかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事にしたい気持ちや考えを記入する。 ・ワークシートを交換して読み合う。 	1 0 分	<p>日常の自分たちを振り返らせる。</p> <p>ワークシートをお互いに交換して他の人の意見を知り、自分の意識を高められるようにする。</p> <p>主価値である郷土愛や、副次的な価値である不撓不屈や助け合い等の観点から自分を振り返ることができているか。</p>
高 め る	<p>5. 地域の方の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の桜島への思いを語る。 ・黒神以外にも移住した人がいたこと。 ・桜島に住む我々には同じような境遇になる可能性があるということ。 ・鹿児島市に合併し、桜島町の多くの行事がなくなるが、みんなにこれからの桜島を盛り上げていってほしいということ。 	5 分	<p>地域の方の桜島への思いに共感させる。</p> <p>自分たち自身が桜島の文化、伝統、行事に積極的に主体的に関わり、桜島を大切にしていこうという気持ちが高められるようにする。</p>

(3) 事後指導

本時で使用した資料やワークシート等を教室内に掲示することで児童の意欲の持続化を図っていく。

本時で学習したことの実践化を図る場として、総合的な学習の時間での取り組みの中で道徳の授業を今一度想起させ、また、地域行事への積極的参加を呼びかけていく。

子どもたちのやる気や実践を賞賛することで、意欲の持続化を図る。

(4) 板書計画

